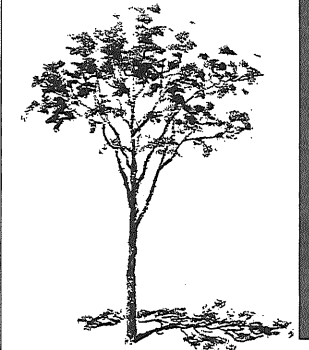


郷土の歴史 357

八潮の地名考

浮塚の地名
その壱



浮塚 現八潮市大字浮塚の地名

浮塚は、綾瀬川・古綾瀬川(現坊川)左岸の沖積地に位置し、自然堤防上に近世集落が発展する。地名は、塚(古墳)が水の中に浮いている様子から起立したと伝え、浮塚の氷川神社は船が沈没し塚となったため、境内は船の形をしている(八潮のむかしはなし)といわれる。

毛長川左岸には、蜻蛉遺跡(古墳・集落跡、草加市谷塚上町)や東・西総田遺跡(集落跡、草加市谷塚町)、

毛長川右岸には白旗塚古墳(足立区)などがあり、谷塚や竹ノ塚などの塚地名が多い。また浮塚の対岸の足立区花畑には、古墳期の白山塚古墳や一本松古墳などがあるので、浮塚(氷川神社境内地)も古墳であったと推測される。

浮塚村 近世初期から明治二十二年の村名。
支配は、近世初頭は幕府領で、寛文二年(一六六二)に旗本森川重名(下総守)領となる。寛文十一年(一六七二)五月二十九日に同家より千

石(内浮塚分約二六九石)を分地し、旗本森川主人領となる。

古代から中世にかけての綾瀬川は、荒川の主流であった。荒川を慶長五年(一六〇〇)ごろに星川へ落とし、元荒川へ流すようになつてから、綾瀬川の水位が下がり、新田開発が盛んに行われ、浮塚の近世集落が形成された。寛永七年(一六三〇)ごろに綾瀬川は、浮塚のところで南へ直道に改修され古隅田川へ落とされ、新流路を綾瀬川・新綾瀬川、旧流路を古綾瀬川と呼ばれ、二流に流れていた。改修後、綾瀬川の舟運漕上の終着地の榎戸河岸・浮塚河岸は、水上交通の要衝地として栄えた。

享保十二年(一七二七)に綾瀬川の曲流部が改修。浮塚村の場合、開削部分の新堀が一ノ間、堀口一ノ間、土手高三間であった。村が二分された中の島ができたため、村人らは、伊奈半左衛門役所へ耕作橋架橋を願ひ出て、幕府から架橋費及びその後

の維持費三〇両が渡され、村請負で「たがひ橋」を架橋した。明治期のたがひ橋は、「里道に属し綾瀬川の下流に架す、長十二間幅七尺土造」(武蔵国郡村誌)であった。また古綾瀬川は、享保十二年に中川の坊と綾瀬川の浮塚で締め切られ、坊村・浮塚村・大曾根村の三か村の悪水路に用いられた(武蔵国郡村誌)。久左衛門新田が中心となり、坊溜を元文二年(一七三七)に洲江領の灌漑溜井と、久左衛門溜井とも呼ばれた。

検地は、寛永四年(一六二七)で村高二六九石一斗九升八合・反別三八町五反四畝一歩、その内、田が三町五反六畝一〇歩の水田優位の村落。元御立野跡新田開発地は、浮塚村新田と呼ばれ、高四斗一升四合・一反四畝二歩は代官支配で、後谷村の管轄。隣村は、北は大曾根村、東は坊村、南は古綾瀬川を挟んで足立郡久左衛門新田(足立区)・西は綾瀬川を挟んで足立郡花又村(足

立区)などと接し、東西一六町・南北三町の村であった。

天保六年(一八三五)の家数四二軒、人別二二三人(八条領村誌)。寺院は、足立郡西新井村総持寺(足立区)末の大正寺、八条村西勝院末の長泉寺で、明治初年に合寺し大仙寺と改名した。大正寺は寛永十三年(一六三六)寂の有海、長泉寺は元文二年(一七三七)寂のユウバンが開山した。なお大仙寺は大正寺を襲い、領主森川重頼肌守りの元禄十三年(一七〇〇)の一才一分の銅製の弁財天を所蔵する。

明治期の浮塚村は、明治二年(一八六九)に小菅果、同四年に埼玉県となる。同十二年の郡制により南埼玉郡浮塚村となり、同二十二年(一八八九)の町村制により南埼玉郡八幡村の大字となり、現在に至る。

文芸欄

呉美代選

詩

まむし草

伊草 中山靖子

ブルドーザーが激しい音を立てて地をならしはじめた

道路拡張工事だ

あつというまに群生するまむし草が

つぶされ、紫の花も葉も茎も

土にまみれて地に伏した

地に伏す花首や葉や茎に

キヤタビラーの跡がついている

この地に種を下ろし根を張って

生きつづけようとした草たちよ

つぶされなかつたまむし草が

弱々しく首を上げた

小さなまむしのような花首を

西陽があたためている

《群衆の中で、行き場を失うもの

たちへのいたみがこめられています。

短歌

鶴ヶ曾根

安藤知晃

たわよく人刺し殺す十七の

心根いよよ解き難くして

柳之宮 栗原幸子

透き通る朝のしじまに聞こえる

ウグイス鳴けり裏の木々の間

木曾根 岡村富子

薬舟の子等のねがいをみちづれに

雛流れゆく安雲野の春

南川崎 小野塚喜代子

軒先の畑に芽吹く露のたう

落葉持ち上げ春を告げおり

鶴ヶ曾根 齊藤通子

目を瞑り手足を伸ばす浴槽に

結べる菖蒲肩に触れ来る

八潮五 小林 光

夕立の去り行き跡のひとつきに

涼呼ぶ風が草をなびかせ

俳句

柳之宮

平沼良子

野に山に花咲き乱る四月尽

八潮七 深井 健

粗方は散りし桜に名残りばな

葉に急かされてはらはらと落つ

西袋 鈴木厚子

沈みゆく赤き夕日を眺めつつ

遠きむかしに想いにつける

八条 種村幸子

子に負けし親の苦笑す将棋盤

ボーカーにも負け議論にも負け

中央一 猪瀬利助

夕映えの流るる雲を眺めつつ

我も行きたやあの雲に乗り

南川崎 松谷永子

正吾様父の七七法要に

遠き日の祖父かさね見し春

木曾根 高谷多門

あの世にも住む場所あると語るとき

目線そらして君は首振る

俳句

二丁目

平井石龍

《評》何度も口ずさみ、完全に仕上げ

てくたさい。言葉に含みをもたせる

ことも大切です。また文語と口語と

が混じらないように注意ください。

由天に吊り橋揺れて山笑う

春愁や詩を奏でる落し水

八条 杉村知香

争いの後の沈黙青嵐

牡丹の香に捕らわれの身となりぬ

八潮六 藤崎政子

風孕み親子の睦まじき

こいのぼり無風の空の昼寝かな

大曾根 小倉義孝

農を継ぐ子がいて大きな鯉のぼり

竹林に竹林の笑み朝日射し

八潮五 西森八重子

草萌ゆる野に詩心を遊ばせる

俳句

八潮七

石井忠枝

俄雨牡丹の芯を崩しけり

大曾根 横山英道

用水を舞台に舞ふや花吹雪

坊 沼野あい

溜息の残る余韻や白牡丹

八潮七 小倉孝義

退院のみやげに胆石立夏かな

緑町五 藤波ふみ

遊覧船ささ波光る初夏の旅

鶴ヶ曾根 平本愛子

雨に伏す牡丹の花に杖を貸し

大曾根 小倉花子

一片の雲見る窓に桜草

大曾根 臼方美代子

春風にオカッパのおでこ全開す

木曾根 古根昌明

菜の花や黄色き傘が動き出し

鶴ヶ曾根 齊藤初子

子等巣立ち庭に菊顔を出す

近よればはらりと落ちて夕牡丹

吉川市

○吉川八坂祭り・朝顔市(朝市)
「あばれ神輿」の八坂祭りと大輪の朝顔が皆さんをお待ちしております。
●7月16日(日)、朝顔市＝午前中、八坂祭り＝午後
詳しい時間については、お問い合わせください。
●平沼地区(JR武蔵野線吉川駅下車北口から徒歩10分)
●よしかわ観光協会(市役所商工課内) ☎82-5111

越谷市

○サンシティクラシック・ティータイムコンサート
仲道郁代ピアノ・リサイタル
●7月15日(土)、午後2時開演
●サンシティ
●ベートーヴェン「ピアノ・ソナタ第26番」ほか、休憩時間にコーヒー、紅茶をサービス
●指定席大人3,500円、学生2,500円、自由席大人3,000円、学生2,000円
●越谷コミュニティセンター ☎85-1111

行ってみいたいな
となりまち

近隣4市1町のイベント情報をお届けします。
ぜひ、お出かけください。



松伏町

○6月24日(土)からB&G海洋センターがオープン
●①午前9時～11時30分 ②午後1時30分～4時30分 ③午後5時30分～7時30分 ④のみ中学生以下の方は、保護者等の送迎が必要
●水泳帽子着用
●大人2,000円、小中学生1,000円、幼児無料(付添いが必要) *3歳児以下は入場できません。
●松伏町B&G海洋センター ☎92-1291

三郷市

○レーゲンスブルク大聖堂少年合唱団
千年にもおよぶ歴史と伝統をもつ合唱団は、清純で可憐にさえずるような歌声で大聖堂の小雀と呼ばれています。
●7月28日(金)、午後6時30分開演
●三郷市文化会館(JR武蔵野線三郷駅北口徒歩13分)
●2,800円(全席自由)
●三郷市文化会館チケットサービス ☎58-9900

草加市

○朝顔市
●7月2日(日)、午前7時～(雨天決行)
●草加松原遊歩道
●大輪のあんどん型朝顔1,800鉢の販売(1鉢1,500円)、せんべい、ゆかた、皮革製品、野菜などの即売
●草加市観光協会(市役所商工課内) ☎22-0151 ☎3662

